現職研修助成事業研修報告書　資料

研修の概要（柳井市立新庄小学校）

研究主題

主体的に学びを進める児童の育成
～　「学び方」の獲得を促す授業づくり　～

（１）　研究の目的と仮説

①　目的

本校では、主体的に学びを進めていける児童の育成を目指している。その姿を具現化するために、児童が学習方法を獲得できることを目指した授業のあり方について研修を行った。

②　仮説

課題解決の方法に関する知識の獲得を図る授業をすることで、児童が課題に合わせて課題解決の方法を選択し、学びを深めていけるようになるのではないか。

（２）　研究内容

主体的に学ぶ過程において、子どもたちは、自己判断や自己決定を求められる場面に遭遇する。その際に自分の中にある経験や知識などから、必要なものを選択・決定し、学びを深めていると捉えることができる。しかし、選択・決定する対象は、上記に挙げた「学習課題」「学習順序」「学習方法」「学ぶ場所や時間」「学ぶ相手」など、活動の状況等によってさまざまであるため、授業づくりにおいては、選択・決定する対象を絞り込む必要がある。

これらのことを踏まえ、本年度の研修においては、「学び方（学習方法）」に着目し、授業改善に取り組んだ。特に、研究教科としては、算数科を中心に研究を進めていくこととした。算数科は、図や表・半具体物などの思考の道具を繰り返し活用して問題解決をするという教科としての特性があるからである。また、この研究は一年次のため、児童には“これが「学び方（学習方法）」なんだよ”を意識づけること、“「学び方（学習方法）」にはこんなものがあるよ”というインプットを中心に取り組んだ。授業づくりの視点として、以下の２点を設定した。

ア　課題解決の方法の選択・決定を促す見通しの場の設定（導入・展開時）

イ　課題解決の方法に着目した振り返り活動の設定（展開・終末時）
（声かけ、板書、ＩＣＴを使った学習方法の記録）

（３）　成果と課題

①　成果について

○　学習方法に着目したことで、授業場面において子どもを評価する視点が増えて、子どもをほめる場面が増えた。
○　授業づくりの際に、「学び方（学習方法）」に着目して板書を構成したり、学び方に関わる道具の提示のタイミングを考慮したりするなど、具体的な授業改善が見られた。
○　「これは学び方だね」というような、学び方に着目した発言をする児童が見られるようになった。
○　面積を求める学習活動の際に、補助線を使った場合と使っていない場合を比較することで、学び方に関する知識をもっていることのメリットを児童に感じ取らせることができたという事例が見られた。
○　それまでに獲得した「学び方（学習方法）」を提示することで、いろいろな方法で課題解決しようとする児童の姿が見られた。
○　振り返りの場面で、「学び方（学習方法）」や具体的に使った「学びの道具」について価値づけることで、関連する学習場面でアウトプットする下地ができてきたと考える。

②　課題

○　学習内容についての教員の意識は高いが、学習方法についての意識はまだ十分ではないので、今後も授業設計の際に学習方法の取り上げ方や評価について研究を進める必要がある。
○　道具を使ったという経験が次の学習でも想起されるように、学習方法の視点からカリキュラムを見直し、各学年における学習方法のつながりを教員が明らかにしておく必要がある。
○　学習方法を選択させる場合には、これまで以上に、「早さ」「簡単さ」「正確さ」を重視した児童への働きかけが必要である。